NIE実践報告

1．タイトル：**☆社会科の調査活動の結果を新聞形式にまとめるための方法について**

2．学校名

長野県上高井郡小布施町立小布施中学校

3．実践者名（代表者名）

玉井　広観

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科地理的分野　30人

6．単元（本時の学習課題）名

身近な地域～小布施町～の調査

7．目標(狙い)

自らの課題に基づいて自分で直接聞き取り調査を行い、その結果、わかったことや感動を新聞にまとめて人に伝える。

8．評価の視点

身近な地域である小布施町について自分の課題（疑問）を設定し、直接聞き取り調査を行い、その結果を新聞にまとめ、発表する事ができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

1年社会科地理「身近な地域~　小布施町~　の調査」11時間扱い中、第9時

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

第1時　身近な地域小布施町の調査の方法を知る。　第2時　二万五千分の一の地図の見方について（十六方位・地図記号・小布施町の土地利用・縮尺・地図上の自宅から学校までの道のりの長さから、実際の距離を求める）　第3時　二万五千分の一の地図の見方について（小布施町の境界を赤でたどる・等高線について知る・350mと400mの等高線を赤でたどる・新旧の地図の比較）　第4時　グラフ等の統計資料の見方について　第5時　小布施町の特徴や魅力を考える（関東農政局長野農政事務所長野統計情報センターの市町村単位の栗・巨峰・リンゴの生産について・長野県庁観光課長野県の観光地の観光客数など）　第6時　新聞のまとめの仕方について（見出し・割り付け等）　第7時　自分の課題（疑問）を設定し、調査計画（聞き取りへ行く場所、どんなことを聞くか等）を立てる。総合的な学習の時間を使い2時間をかけて調査（調査は同じ課題を立てた生徒同士で）　第8時　調査のまとめと新聞へのまとめを行う（放課後等も利用して鉛筆で下書きを完成させる）　第9時（研究授業）班を作り、班内で下書きを発表し合い、班員から清書に向けてアドバイスをもらう。　第10時　ペンで新聞の清書を行う。　第11時　班内で発表者を決め、代表が学級全体で清書を発表する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

自分の住んでいる小布施町について、何となくわかっているようでわからない事が多い生徒達が、「なぜ小布施は観光客が多いのか」、「なぜ栗の栽培が盛んなのか」、「なぜリンゴや巨峰の栽培が盛んなのか」などの課題を設定し、自分で聞き取りをしたことで、その結果を生き生きと新聞にまとめることができた。

12．成果と課題

成果　自分の課題（疑問）を生徒が自ら実際に農家や栗菓子店・博物館などへ行き、見て聞き取りをしたことにより、その感動・驚きを意欲的に新聞にまとめて発表することができた。小布施は栗菓子やりんご・巨峰などの果樹、葛飾北斎や髙井鴻山の絵だけでなく、町で取り組んでいる町並み（たたずまい）の良さも観光客を引きつける魅力であることに生徒達は気づいた。何より生徒達が意欲的に新聞を作っている姿が良かった。

課題　教師の側で新聞の形式にこだわったので、（割り付け・必ず書くべき事の指定など）似た形式の新聞が多くなったが、形式にこだわらず、もっと自由に書かせれば、より生徒の感動を伝えられたのではないか。